

JTTA Spring Conference 2024 Program

2月10日(土)

9:00 受付開始

9:20 開会式

司会：東福寺 幾夫(事務局長)

開会挨拶：近藤 博史(会長)

9:30 特別企画Ⅰ 「医療DXの基盤となるサイバーセキュリティ技術の展望と実際」

企画の趣旨 サイバー攻撃に対して医療機関の被害は避けられないと思われがちだが、実態は異なる。適切なサイバーセキュリティ対策を丁寧に実施すれば、リスクを低減できる。それにも関わらず攻撃事案が多いのは、医療関係者もベンダー技術者も知識不足により、必要な対策の実施が難しいことが要因と考えられる。サイバーセキュリティについては地域医療情報連携ネットワークで技術の蓄積が進んでいる。今回の厚生労働行政推進調査事業では、鳥取県の地域医療情報連携ネットワークのおしどりネットで培った知識が活かされ、日本遠隔医療学会学術大会JTTA2023で研究成果を報告した。それに続いて、スプリングカンファレンス2024では、サイバーセキュリティ上のリスクと、その対策について、具体的な技術やおしどりネットを活用したバックアップサービスなどを提言する。リスクや技術の展望を近藤先生から概観し、具体的な技術をセコム山陰株式会社から紹介し、総合討論を行う。

座長：長谷川 高志(日本遠隔医療協会)

講演1 「サイバーセキュリティの基本はISMSです。ウイルス検知は対策方法の一部です。」

近藤 博史(協立記念病院、日本遠隔医療協会)

講演2 「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策の実際」

西村 元宏(セコム山陰株式会社)

総合討論

11:00 コーヒーブレイク <15分>

11:15 特別企画Ⅱ 「総務省における医療・健康等分野への取組」

企画の趣旨 2013年より総務省では遠隔医療の普及のために、「遠隔医療モデル参考書」を作成し提供してきた。今回は、その更新の流れや総務省の遠隔医療推進策の現状を報告していただく。

座長：長谷川 高志(日本遠隔医療協会)

講演 「総務省における医療・健康等分野への取組」

山崎 敬太郎(総務省情報流通行政局地域通信振興課デジタル経済推進室 課長補佐)

12:15 昼食 <75分>

13:30 特別企画Ⅲ 「今、PHRを考える～医療関係者・民間事業者それぞれの視点から～」

企画の趣旨 PHRという言葉の露出が増えているが、立場により異なる意図で使用されている。医療DXが進む中、その成り立ちや、PHRを巡る現状と課題について俯瞰的に検討する。

座長：長谷川 高志(日本遠隔医療協会)

講演1 「遠隔診療とライフログデータの活用について」

本間 聡樹(JCHO 埼玉メディカルセンター)

講演2 「事業者団体が考えているPHRやPHRサービスの定義と

未来像や課題への取り組み状況について」

鹿妻 洋之(PHRサービス事業協会)

講演3 「医療DXおよびPHRを取り巻く関連政策について」

白根 健太郎(経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長補佐)

パネル討議

14：30 特別企画Ⅳ 「電子処方箋から始まるオンライン化の現状 2024」

企画の趣旨 電子処方箋の運用が始まって1年が経過した。電子処方箋推進の現状を担当官庁の厚生労働省と事業者団体から報告する。

座長：鈴木 亮二（高崎健康福祉大学）

講演1 「電子処方箋から始まるオンライン化の現状」

高橋 悠一（厚生労働省医薬局総務課薬事情報専門官）

講演2 「電子処方箋の仕組みと動向について」

新垣 淑仁（日本保健医療福祉情報システム工業会事業企画推進室）

パネル討議

15：30 コーヒーブレイク <15分>

15：45 一般演題

座長：森田 浩之（岐阜大学）

発表1 「奈良県南和医療圏にあるへき地診療所への遠隔医療の実装とオペレーション開発事例報告について」

高尾 理雄（東京大学）

発表2 「オンライン診療現場におけるPOCUS活用のための概念実証」

千葉 裕（桔梗ヶ原病院）

発表3 「遠隔医療をめぐる法制度の整備に関する課題」

原田 香菜（早稲田大学）

発表4 「企業から見た遠隔ICU導入における課題と普及推進のための提言」

佐藤 和典（フィリップス・ジャパン）

17：00 情報交換会

司会 東福寺 幾夫（高崎健康福祉大学）

開会挨拶 長谷川 高志（日本遠隔医療協会）

乾杯 近藤 博史（協立記念病院）

懇談 全出席者

参加者のスピーチ 全出席者

中締め 森田 浩之（岐阜大学）

19：00 第1日目終了

2月11日(日)

9:00 開 場

9:30 日本遠隔医療協会特別報告

座 長：東福寺 幾夫（高崎健康福祉大学）

報告者：長谷川 高志（日本遠隔医療協会）

テーマ1 「令和6年度診療報酬改定速報」

テーマ2 「オンライン診療の実態と患者指導方式の提案」

テーマ3 「へき地遠隔医療の評価尺度のアイデア」

10:15 コーヒーブレイク <15分>

10:30 特別企画V 「災害時医療支援・システムの現状と国際環境」

企画の趣旨 災害時の医療支援は、災害種・地域・規模・季節など様々な要因によって臨機応変にかつ的確に行われなければならないところ、J-SPED（災害時診療概況報告システム）が開発され、支援の質が格段に向上した。一方で、日本には多くの国から勤労者が定住するようになり、また多くの外国人観光客を受け入れることとなり、その方々が日本の災害に思い混乱するあるいは命の危機にさらされる事態も想定される。医療通訳という分野で活動する日本人ボランティアもいるが災害時に短時間で多言語の通訳者を組織することについては困難もある。この課題を遠隔医療の一分野として解決する道があるのではないか。

本シンポジウムでは、J-SPEEDの開発・運用で災害医療支援がどのように変わったのか、国際的にどのように評価され運用されようとしているか、日本における外国人被災者にどのような医療支援が可能になるかを明らかにする。

座 長：酒巻 哲夫（日本遠隔医療協会）

講演1 「災害診療記録と J-SPEED について」

田治 明宏（広島大学 大学院医系科学研究科公衆衛生学）

講演2 「What if the culture and language are different? What Interpreters and Volunteers Need to Know. -From the time of disaster to recovery

通訳士、ボランティアが心得ておくこと -」

Yuka Lysiuk（International Medical Interpreters Association）

講演3 「大震災から生まれた AI 通訳システム：遠隔医療支援への応用」

瀧澤 清美（C&T 株式会社）

12:00 閉 会 式

司 会：郡 隆之（利根中央病院）

JTTA2024 OKAYAMA ご案内

笠原 真悟（岡山大学）

事務連絡

13:00 運営会議
